

のアルバム

100歳おめでとう

100歳の誕生日を青木うめさん（北桜）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正6年5月9日生まれのうめさんは、36歳から3年間病により床に臥されましたが、食事療法などにより回復し、さらに体力を向上させるため、約40年間新聞配達を行い元気いっぱいこの日を迎えました。

楽しかったこと、苦勞したことなどの思い出を市長に語られ、独学で身につけられた手芸の技術を生かした見事な「家紋」を紹介していただきました。

いつまでもお元気で。

▼5月16日 北桜



▼5月15日 市役所



地域社会のために活用します

中国塗料(株)が、広島県で誕生して今年5月に創業100周年を迎えられ、その記念として市へ「まちづくり寄附金」のご寄附をいただきました。

同社は、昭和37年3月に滋賀工場（三上）としても創業50年以上の歴史があり「人権が尊重され、福祉の充実した地域社会を実現するための事業」への活用を望まれています。

今回のご寄附は、市民の皆さんの知恵と力をまちづくりに生かし、人権と環境を土台に、生きる意味が実感できる活力ある自立した地域社会の実現をめざし有効に活用させていただきます。

地域で見守り・支えます

野洲市見守りネットワークは、事業者や団体等の協力を得て、高齢者や障がい者、子ども、生活困窮者等が住み慣れた地域で安心して安全に暮らせるよう「見守り・支えあう」ことを目的としています。

この見守りネットワークにご賛同いただきました14事業者、6団体と市が協定を締結し式典を開催しました。

皆さんから心強いお言葉をいただき、今後は、連携体制を強化しながら市民の安心・安全な暮らしの確保に取り組みます。

▼3月28日 市役所



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

153

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

きたむら きぎん 北村季吟

北村季吟は、江戸時代の寛永元年（1624）12月11日に生まれ、近江国野洲郡北村（現・野洲市北）を故郷とし、俳人・歌人・国文学者として活躍しました。京都で松永貞徳に教えを受け、33歳で俳諧宗匠（俳諧という文字の先生）として独立しています。『おくのほそ道』などの文学作品で知られる松尾芭蕉も季吟に教えを受けています。また、源氏物語、伊勢物語、土佐日記、徒然草、枕草子、万葉集など、数多くの古典文学を解説した書を著しており、なかでも『源氏物語湖月抄』は代表作として読み継がれています。

季吟は、60歳の時、和歌にゆかりの深い京都の新玉津嶋神社の社司（神職）となります。66歳の時には、江戸幕府において和歌の指導にあたる初代の歌学方となり、5代將軍徳川綱吉に仕えました。晩年は江戸で過ごし、宝永2年（1705）6月15日、82歳で亡くなりました。

北自治会館前には、「祇王井にとけてや民もやすこほり」の句碑があります。この句は、季吟の句集『続山井』に「解氷」という題で収められており、「江州野洲郡永原といふ所にて興行に」の詞書（前書き）があることから、野洲で詠んだ句であることが確認できます。

昭和30年（1955）より、毎年6月15日の命日「季吟忌」には、この句碑の前で法要が勤められ、句会などの記念行事が開催されてきました。北村季吟顕彰会により俳句巻開が行われ、句集も発刊されています。なお、現在は6月第2土曜日の開催となっています。

現在、当館で開催している展示では、当館が所蔵・保管する北村季吟の自筆の書状や和歌などを紹介しています。季吟関係資料の収集を行ってきた当館のコレクションを、この機会にぜひご観覧ください。

（博物館学芸員 齊藤慶一）



北村季吟画像(季吟文庫)

■特集陳列「北村季吟」7月9日(日)まで

休館日：月曜日 ※市民は入館無料



ゆりがご水田米 大きくな〜れ

せせらぎの郷・須原魚のゆりがご水田協議会主催の田植え体験が行われました。

魚のゆりがご水田は、琵琶湖と田んぼをつなぐ排水路に魚道を敷き、魚の成育環境を守り、生き物と人とが共生する命あふれる農村の再生をめざすプロジェクトです。

この日はあいにくの雨でしたが、県内外から親子など約80人が参加しました。

同プロジェクトの講座を受け、昼食には、ゆりがご水田で収穫したお米で作ったおにぎりが振舞われ、皆さんおいしそうに食べていました。

昼食後は、機械に頼らない昔ながらの田植えを体験し、泥の感触に歓声を上げながら自然と触れ合いました。

▼5月13日 須原



《お詫びと訂正》

5月号の「これからも地域防災のために」記事で、氏名に誤りがありましたのでお詫びし訂正します。

（正）福永和真さんが優秀賞を・・・

（誤）福永和馬さんが優秀賞を・・・